



白杵焼の質問をする学生＝白杵市深田

【白杵】「白杵市の観光促進と地域の活性化」をテーマに研究した立教大観光学部（埼玉県）の風間欣人特任教授と学生23人が22日、観光施設を市に提案した。

都心部の大学生が市に提案 白杵観光若者の視点で

上質な食、周遊に可能性

周年記念事業の一環。10月には同市を訪れ、白杵磨崖仏や白杵焼を製造販売する工房、食文化の関連施設などを見学。城下町をくまなく歩いた。その後、学内で提案へ向け討議を重ねた。

発表はオンラインで実施した。各グループは同市をコンパクトで歩きやすく上質な食が楽しめる街と評価。各所に日本酒サーバーを設置することや、訪日外

風間特任教授＝顔写真上と市地域おこし協力隊員の小島力郎さんが民間企業で同僚だった縁で実現した。白杵磨崖仏国宝指定30周年記念事業の一環。

学生は4グループに分かれて9月に研究を始めた。10月には同市を訪れ、白杵磨崖仏や白杵焼を製造販売する工房、食文化の関連施設などを見学。城下町をくまなく歩いた。その後、学内で提案へ向け討議を重ねた。

国人旅行者向けに同市と別府市、由布市湯布院町をハイヤーで周遊し食を堪能するツアーナどを必要経費や目標値を示して提案した。地理的課題を指摘し、ふるさと納税の活用促進を提案した出石響子さん（20）は「研究することで白杵ファンになつた。多くの人が白杵を知つて継続的に関わつてほしい」。風間特任教授は「都心部の若者視点で地域の可能性を感じ取ってくれた」と振り返った。

市は「細かなデータ分析と若い発想に驚いた。次期観光振興戦略の参考にしたい」と話した。

（小林滋）